



No. 60  
2020 Summer

山松舎  
臨南寺

特集

瑩山禪師ものがたり ⑤



永平寺で剃髪された瑩山さま

驚くことばかりの日々が待っていました

最初は見習い僧からスタート

日常の動作すべてに作法あり

八歳で永平寺に登られた瑩山さま。義

介さまのもとで髪を剃り、頭を丸められ  
ます。しかし、すぐに得度できたわけでは  
ありません。最初は沙弥と呼ばれる見習い  
僧になります。

永平寺では、読経やお勤め、坐禅だけで  
なく、顔を洗うことも、食事することも、  
トイレを使うことも、風呂に入ることも、  
すべてが修行とされます。

沙弥には十戒が課されます。生き物を  
殺さない、盗まない、嘘をつかない、女性と  
関係しない、酒を飲まないという五戒に加  
えて、装飾品の禁止、歌や踊りの禁止、ぜい  
たくな寝具の禁止、金銀財宝を持たない  
などの戒律があります。でも、八歳の瑩山  
さまには、どれもあまり関係のない禁止条  
項でした。

これは、今は亡き道元さまの教えなので  
す。行住坐臥といいますが、朝起きてから  
夜寝るまでふだんの起居動作のすべてに、  
してはいけないことや作法が細かく定めら  
れています。

例えば、洗面。道元さまは洗面について、  
次のように書き残されています。  
「ただ垢や脂を取り除くためではなく、こ  
れは仏祖から伝えられた命の流れである。

顔を洗わずに礼拝を受けることも、礼拝  
することも、どちらも罪である」と。  
そして、洗面のしかたが細かく指示さ  
れています。洗面所に持参する手巾――  
手ぬぐい一つにも、その長さから使い方まで  
指示されており、白色は禁制と書かれてい  
ます。

道元さまがお決めたようになった作法を、厳格  
に守り実践していくことが修行であり、そ  
の二つと一つの動作が仏法そのものに他な  
らないというのです。永平寺の修行は、日々  
の行いそのものの中にあります。悟るため  
に修行するのではなく、ひたすらに修行す  
る姿の中に悟りがあるというのが、道元さ  
まの教えなのです。

修行する姿の中に悟りがある

幼い瑩山さまには、永平寺の一日二日は  
驚くことばかりでした。しかし、幼いから  
こそ、乾いた大地に水が染み込むように、  
永平寺のすべてを受け入れることができ

たのです。  
朝早くから勤行や坐禅、そして境内の  
掃除から台所のお手伝いと、作法を違え  
ることなく心を込めてすべてのことに取り  
組まれました。そんな瑩山さまに、師匠の  
義介さまも目をおかけになり、仏教の経  
典をはじめいろいろな難しい学問を教えら  
れたのです。

入山から五年後に、懐装さまから得度  
を受けて正式に仏弟子になられるので  
すが、その話は次回といたしましょう。



永平寺の山門。永平寺の中でも最古の建物

# コロナ禍に想う

今年になってから、新型コロナ

臨南寺 住職 大澤正道



ウイルスのニュースを耳にする  
ようになり、その後クルーズ船  
などでの広がりから瞬く間に  
日本各地に感染拡大し、当寺  
に於いても彼岸行事を中止致  
しましたが、檀信徒各家の先  
祖代々のご供養は懇ろに勤め  
させて頂きました。

局を乗り越えていかなければ  
ならないと思えます。また、感  
染された方や医療従事者の方  
たちへの偏見による不当な差  
別やいじめの問題などもあつて  
はならない事です。

大本山總持寺を開かれた瑩  
山禪師様の残された「たとい  
難値難遇の事あるとも必ず和  
合和睦の思いを生ずべし」とい  
うお言葉があります。

困難に直面している今こそ  
お釈迦様・道元禪師様・瑩山  
禪師様の御教えを胸に前向き  
に生活していきたいと思えます。

感染症拡大の状況下で世界  
中の人類が手を携え、この難

に生活していきたいと思えます。

## 本堂もお墓も

### お参りください

毎日午前九時～午後  
四時まで、本堂を開扉し  
ております。どうぞお参  
りください。



## 編集後記

コロナ禍により世界が一変しま  
した。それも世界中で同時に。こ  
んな事が起きるのですね。元気  
のない人間に比べて、花や虫、鳥  
たちがいつもより元気に見えるの  
は気のせいでしょうか。今までの  
生活のままでよいのか、振り返るき  
っかけにしたいものです。(M)

## 臨南寺行持予定(八～九月)

お盆と秋のお彼岸につきまし  
ては、新型コロナウィルスの状況  
を見ながら、あらためてご案内さ  
せていただきます。

早朝坐禅会、写経会につきま  
しても、参加者様の健康を第二に  
考え、当面の間休止させていただきます。  
ご理解のほどよろしくお  
願い申し上げます。

「ほ～っと」60号

令和2年7月

編集・発行： 稜伽林「ほ～っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園1-32

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com